



ケーススタディ: Source Certain 社

元素フィンガープリントを用いた 製品の産地の確認

Source Certain 社は、鉱物、飲料、および食品の品質保証試験に元素分析を使用するパイオニアです。

オーストラリアのパー스에拠点を置く Source Certain 社は、鉱物、飲料、および食品の品質保証試験のパイオニアです。その堅牢な科学的ソリューションは、全世界の農業、海産物、鉱業、および資源関連の各業種から信頼されています。Source Certain 社は、食品および資源関連企業に対して、製品の産地を検証するための科学的ソリューションを提供することにより、それらの企業が自身のサプライチェーンを強化する支援を行っています。CEO である Cameron Scadding 氏にお話を伺いました。

Q. Source Certain 社の業務内容を教えてください。

当社は、産地に関する科学的サービスを提供するオーストラリアの主要なプロバイダーです。食品および資源関連企業に対して、製品の産地を検証するための科学的ソリューションを提供することにより、それらの企業が自身のサプライチェーンを強化する支援を行っています。

また、当社のサービスポートフォリオには、世間に認められ高く評価されている基礎的な分析および法医学関係のサービス部門も含まれており、15 年間にわたって世界の法執行を支援し続けてきました。

Q. お客様が貴社のサービスを利用する目的は何ですか。

サステナブルやエシカルといった製品の産地とその製造方法に関する事実内容は近年、消費者にとって不可欠な情報になっています。製品そのものに関する情報だけでなく、その裏付けも同様に重要になります。このような裏付けは、製品の価格や他の特徴よりも重要になる場合もあります。お客様は、ご自身の製品の裏付けに関する支援を求めて、当社にご相談に来られます。

当社は、単なる分析試験コンポーネントをはるかに超えたものを提供しています。産地に関する科学的サービスでは、サプライチェーンのマッピング、データベースの構築、定期的な市場内サンプリング、および利害関係者との技術上のやり取りなどを通して、お客様に包括的なソリューションを提供しています。



「当社のお客様は長期にわたって誠実に、一緒に歩んでいただいているのではないかと感じています。そして、そこにはいつもアジレント社がいてくれます。当社が必要とする際にはいつも、タイミングよくリソースが利用できる環境なのです。」

Cameron Scadding 氏

CEO

Source Certain 社

Q. 競合他社を上回る優位性はどのような点ですか。

当社のプログラムは数年間にわたって実行されることが多く、このように長期にわたる関係性を維持するためには、社内に商業面および科学面に深く関与するチームを保有することが重要になるという点を認識しています。

現時点で最高水準の技術を備えたラボは、レベルの高い品質管理と効率を実現しており、この点は間違いなく競合他社を上回る優位性です。社内ですべてのサンプルを分析し、これによりその分析結果をクロスチェックします。当社が取り扱う種類のサンプルに対する CRM が非常に少ないため、複数の方法で QC の結果を得ます。

分析から汚染源を慎重に取り除くことにより、クリーンルームを使用しなくても、ppq レベルの検出限界を達成できます。

当社では、海産物から金、穀物から鉱物まで、非常に幅広い種類のサンプルを分析しています。ほぼすべての天然由来製品を分析できます。

Q. 受け取るサンプルの種類を教えてください。

ラボで受け取るサンプルは何でも分析できる必要があるため、そのようなサンプルをすべて処理するための装置の能力が重要になります。

通常は、すべてのサンプル中のすべての元素を分析します。そのため、大量のデータが発生します。このデータを適切に管理することがプロセスにとって大事になります。

Q. 貴社の分析的アプローチについて説明してください。

また、法廷でも説得力のある完全性の高い分析結果が必要になります。以前法廷において、当社の分析結果が法医学的な証拠として認められたことがあります。このことにより、特定の製品に対して当社のサービスが魅力的なものとなっています。

新しい種類のサンプルを受け取った際、通常はそのサンプルを ICP-OES 測定の最後に加えて、サンプル中に存在する元素とその濃度に関する情報を得ます。または、レーザーアブレーション ICP-MS システムを使用し、そのような情報を得ます。

ICP-MS と ICP-OES の両方でスイッチングバルブを使用していますが、これは生産性の観点から見て非常に気に入っています。また、サンプルあたりの分析コストを最小限に抑えることも目標としています。アルゴンは非常にコストがかかりますが、スイッチングバルブを使用することにより、そのコストが抑制できます。新しいラボでは、より大型のポンペを設置することにより、以前より長期にわたってすべての装置にガスを供給できるようになっています。

www.agilent.com/chem/icp-ms

ホームページ

www.agilent.com/chem/jp

カスタムコンタクトセンター

0120-477-111

email_japan@agilent.com

本製品は一般的な実験用途での使用を想定しており、医薬品医療機器等法に基づく登録を行っておりません。本文書に記載の情報、説明、製品仕様等は予告なしに変更されることがあります。

DE12793068

アジレント・テクノロジー株式会社

© Agilent Technologies, Inc. 2023

Printed in Japan, January 11, 2023

5994-5593JAJP

Q. アジレントとの関係性はどのようなものですか。

アジレント社との関係は 2005 年にまで遡ります。現在では、アジレント社の原子分光分析装置を 6 台保有しています。最近になってさらなる設備能力が必要になったため、最新の ICP-MS を 2 台購入しました。

Q. アジレントの装置の機能の中で最も役に立つと思われるものは何ですか。

Q. アジレントの装置の機能の中で最も役に立つと思われるものは何ですか。

当社は 2 つの場所にラボを構えているため、装置をリモートコントロールするように設定しています。どの ICP に対しても、どこからでもログオンできます。これは、パンデミック時にソーシャルディスタンスを確保する必要があった際、非常に役に立ちました。

Q. アジレントのサポートについてどのように考えていらっしゃいますか。

装置のどこかが故障した場合は、通常、分析者が問題を解決するために作業時間の 80 % を費やしてしまう場合があります。分析者では問題が解決できない場合は、アジレント社のサービスに連絡します。アジレント社の対応時間および能力はきわめて信頼性が高く専門的であることを、当社は理解しています。